

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

測定年度	令和5年度	学校コード	F113310103224	設置等組織名	(仮称)健康スポーツ学部 健康スポーツ科学科 (仮称)産業情報学部 産業生産科学科、生産環境工学科、食料ビジネス学科
大学名	中央大学	設置区分	私立	事業計画名	中央大学 デジタル×スポーツ系、デジタル×グリーン系 2学部新設
学校種	大学	都道府県	東京都		

1. フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画は取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況		自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		① 2023(令和5)年10月 自治体・企業等との事前協議、企業等に対する人材需要調査の実施（出張を含む） ② 2023(令和5)年10月 高校生・保護者・予備校等を対象とした学部分野システムに関するマーケットニーズ把握調査の実施 ③ 2023(令和5)年10月 施設改修に関する検討のための調査の実施 ④ 2024(令和6)年1月 新学部に関連するアドバイザー・コンサルタント業務の委託(1年目 ※各半年度別契約を想定) ⑤ 2024(令和6)年4月 新学部に関連するアドバイザー・コンサルタント業務の委託(2年目 ※各半年度別契約を想定) ⑥ 2024(令和6)年5月 高校生・保護者・予備校等を対象とした学部コンセプトブラッシュアップのための調査実施 ⑦ 2025(令和7)年1月 学生確保のためのフロンディングに関するコンサルタント業務の委託 ⑧ 2025(令和7)年4月 事前相談を含めた学部設置に係る申請業務の補助を委託 ⑨ 2025(令和7)年6月 学生確保のための文部科学省申請用調査用リリース作成 ⑩ 2025(令和7)年9月 文部科学省申請用の実習生調査および申請書類準備の実施(文部科学省申請準備)	① 2023(令和5)年10月～2024年(令和6)年3月 自治体・企業等との事前協議、企業等に対する人材需要調査の実施(出張を含む) ② 2024(令和6)年3月 高校生・保護者・予備校等を対象とした学部分野システムに関するマーケットニーズ把握調査およびコンセプトブラッシュアップの調査準備 ③ 2024(令和6)年3月 施設改修に関する検討のための調査の実施開始（翌年度へ継続） ④ 2024(令和6)年3月 新学部に関連するアドバイザー・コンサルタント業務の委託(1年目 ※各半年度別契約を想定) ⑤ 2024(令和6)年4月 新学部に関連するアドバイザー・コンサルタント業務の委託(2年目 ※各半年度別契約を想定) 2025(令和7)年4月 「新学部開設準備および申請(備出・認可申請他)」に関するアドバイザー・コンサルタント業務の委託(として整理・統合し、2025年度実施予定 (令和7年2月28日承取)) ⑥ 2024(令和6)年6月～9月 高校生・保護者・予備校・企業等を対象とした学部コンセプトブラッシュアップのための調査実施 (令和7年2月28日承取) ⑦ 2025(令和7)年1月 学生確保のためのフロンディングに関するコンサルタント業務の委託 2025(令和7)年4月 「新学部における学生確保を中心としたフロンディングに関するコンサルタント業務の委託」として整理・統合し、2025年度実施予定 (令和7年2月28日承取) 【改組内容】 令和6年 健康スポーツ学部 健康スポーツ科学科について、設置等組織名をスポーツ情報学部 スポーツ情報学科に変更して検討中。 令和6年 産業情報学部 産業生産科学科、生産環境工学科、食料ビジネス学科について、設置等組織名を情報学部 情報生産科学科の1学科制に変更して検討中。また、学位分野を「農学関係」「工学関係」「経済学関係」「法学関係」「工学関係」「工学関係」に変更して検討中。	R5年度自己評価 [3]計画を十分に実施している。	2学部の構想検討の進捗状況が異なっていることを原因として、高校生・企業等向けのアンケートについては当初想定した時期より遅らせた。送付先の高校がほぼ直近のことから先方への負担、回収率、同時実施による効率的な経費使用の観点から2023年度はアンケート準備へ変更し、2024年度に同時実施する。実施時点までの検討進捗に留意しつつ、一部修正を加えながらアンケート実施を行う予定である。 必要な施設想定をするにあたり、特に給排水、電気関連設備、想定教員の研究に関わる仕様などが大きく関係する実験・研究施設について学部設置構想の進捗に応じて、適切な既存施設改修での対応可否または施設新設要否についての調査範囲等が変わることを原因として、施設設備の調査開始が遅れている。講義室、研究室や実験施設といった施設想定を、機能別に切り分けたうえで問題点・改善点を明確化し、対応している。	
				R6年度自己評価 [3]計画を十分に実施している。	新2学部に関するマーケットニーズ調査を実施し、その結果を学部コンセプトのブラッシュアップに用いるため、最終的な成果報告書の前に、簡易分析をした中間報告をもらうなどの工夫を行うことにより、アンケート結果を段階的に学部構想に反映させた。 また前年度より、必要な施設検討を継続して行っている。具体的には、教員候補者の各々に必要な教育研究環境の調査を実施し、既存施設の改修を含めた基本計画や改修に必要な与条件整備、調査を設計会社などに行って実施を継続している。特に、研究や実験に必要なインフラ（給排水、排気・空調設備、電気関連設備など）については、個々の教員の研究に関わる仕様などに大きく左右されるため、関係する実験・研究施設を中心に準備を進めている。また、情報観度学部の開設において附属必須施設である農場についても、確保に向けて準備を進めている。	
認可申請 又は届出		2026(令和8)年3月 (仮称)農業情報学部 農業生産科学科、生産環境工学科、食料ビジネス学科 設置認可申請予定 2026(令和8)年3月 収容定員の施設増設 認可申請予定 2026(令和8)年4月 (仮称)健康スポーツ学部 健康スポーツ科学科 学科の設置届出予定				
フェーズ1後期						
フェーズ2		① 2026(令和8)年4月 既存施設(講義教室等)の改修【共用施設】 ② 2026(令和8)年4月 実験施設整備【新学部専用】 ③ 2026(令和8)年4月 人工芝化による設備対策および雨天対応型ヘスポート施設改修【共用施設】 ④ 2026(令和8)年12月 農場関連施設（農器具庫・農場管理棟）の整備 ⑤ 2027(令和9)年1月 既存施設（講義教室等）へ教室家具・機器備品(遠隔授業対応情報機器他)の導入【共用施設】 ⑥ 2027(令和9)年1月 実験施設へ機器備品(実験器具他)の導入【新学部専用】 ⑦ 2027(令和9)年1月 スポーツ施設へ機器備品(測定データ機器他)の導入【新学部専用】 ※フェーズ1の期間で整備計画を検討するが、前倒し、または学生進等で行う可能性あり(その場合は計画変更承認申請手続を予定) ※※既存施設等の建物整備計画については、フェーズ1にて給排水設備他条件を洗い出し、精査予定。				
開設 又は定員増		2027(令和9)年4月 (仮称)健康スポーツ学部 健康スポーツ科学科 開設予定（入学生員300名、工学関係、経済学関係） (仮称)農業情報学部（農業生産科学科、生産環境工学科、食料ビジネス学科）開設予定（入学生員300名、農学関係、工学関係、経済学関係、理学関係）				
フェーズ2後期						
フェーズ3		① 2027(令和9)年7月 多様な入学者確保のためのオープンキャンパスの実施 ② 2027(令和9)年7月 多様な入学者確保のための開設年度広報 ③ 2027(令和9)年9月 学生確保のための調査等の委託 ④ 2028(令和10)年7月 多様な入学者確保のための開設2年目広報 ⑤ 2029(令和10)年7月 学生確保のための裾野活動および効果測定など調査委託 ⑥ 2028(令和10)年7月 卒業生の進路先開拓に向けた調査委託および新学部広報活動実施（出口広報） ⑦ 2029(令和11)年4月 卒業生の進路先等キャリア形成に関するワークショップの実施 ⑧ 2029(令和11)年7月 多様な入学者確保のための開設3年目広報および効果測定等の調査委託・実施 ⑨ 2030(令和12)年12月 完成年度総括と今後の展開に向けた入学満足度等調査・委託				
フェーズ3後期						
定員減又は 学部等の廃止						

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	中央大学
		学部学科名	健康スポーツ科学部 健康スポーツ学科

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	全体的な計画として、適切な管理・教育体制および教育研究環境の整備を図る検討は進んでいるが、既存施設等の調査開始が遅れている。施設想定にあたり、特に給排水、電気関連設備、想定教員の研究に関わる仕様などが関係する実験・研究施設については、学部設置構想の進捗に応じて、既存施設改修での対応可否または施設新設要否についての適切な調査範囲等が変わることが原因である。施設想定を機能別での切り分けや2学部で共通利用可能な施設設備などの整理が課題である。現在関係部署にて対応し、2024（令和6）年度には整備計画策定に着手する予定である。				
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	申請時点では、企業等の有識者・技術者をアドバイザーとして求めるようことも想定していたが、現時点では、新学部設立検討委員会の委員が、日本スポーツアナリスト協会や実務経験のある本学教員等から意見を求める形で進めている点、軽微な変更を行っている。 なお、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画であることに変更はない。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の策定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第16条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機微が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	中央大学
		学部学科名	健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

4. 調査事項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
 - チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
 - チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施については、スポーツをする・みる・ささえる・しる」ことに関わるフィールドワークやインターンの場を設けるにあたり、企業・自治体との連携が必要と考えている。データサイエンスの要素を活かし運営や指導に携わること、データの計画や分析をするのみではなく、どのように効果的なアウトプットやフィールドワークをするかという運営視点も併せ持つことが生きた学びとなると思定しているため、フェーズ1では、その実現に向けて、近隣自治体や企業等を対象に健康スポーツにおける連携ニーズについて調査し、具体的な分野の絞り込みやカリキュラム設定の検討を進めていく予定である。地域の他大学との連携については、本学では展開していない医歯系、薬学系、家政学、栄養学等の分野を擁する大学やスポーツ活動におけるデータ収集においてともに活動が可能な近隣大学等との連携を視野に入れて検討する予定である。	2023年度は近隣の自治体（1件）に構想のご案内からアプローチを始めており、2024年度に入り構想検討状況の報告と意見交換を行っている。今後その他の近隣自治体とも順次意見交換などを行う予定である。企業については、ニーズ調査の準備を進め、新学部の学部分野と関係する企業を含め約1,000件を特定するとともに、本学多摩キャンパス近隣所在地に本社、支社、営業所などがある企業についてもアプローチできるようなアンケートを準備した。2024年度に高校へのアンケートと同時に実施のうえ、アンケート結果に基づいて今後高校生の進学ニーズともマッチするような企業との連携等を含めた調整を進める予定である。スポーツ活動とデータとの関係において既に教育研究実績のある他大学（1件）を訪問し、意見交換および施設見学をさせていただいた。いただいた意見などを構想検討に活かしており、2024年度においても3件程度の大学を訪問し意見交換を行う予定である。今後カリキュラム等の検討進捗に応じて、本学では展開していない分野を擁する他大学との連携も視野に科目等の検討を行う予定である。	各々届出・認可申請による新設予定の2学部構想を兼ねた計画のため、各学部の検討進捗状況に差が出ている。一方で、効率的な経費使用の観点にも鑑み、同時に行うべき取り組みもあるため、各設置構想の進捗に応じて各々の構想と計画実施における調整が課題である。具体的には2学部で重複したアンケート実施とらないように今年度は対象企業の選定やアンケート訪問作成などの準備を実施し、アンケート調査自体は2024年度実施とする経費的な変更を行うことで対応した。そのため、企業へのアプローチより地方公共団体（自治体）への活動比重が高かったが、次年度以降はアンケート結果に基づいて企業へのアプローチを重点的に進めていく予定である。フェーズ1の構想検討期間において、企業との意見交換を検討に活かすとともに、実際に科目連携まで結び付けられるよう、アンケート結果に基づいて教育目的・カリキュラムポリシーなどに共通してもらえる企業と連携調整等を計画通り進めていく。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
 - チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
 - チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
 - チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
 - チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保については、本学が既に実施している理工系分野を目指す女子学生が自らのキャリア形成に活用できる知見を得ることを目的とした女性理工系スペシャリスト育成プランを新学部に適した形へリブランディングするとともに、高校時代にアスリートやマネージャーとしてスポーツに取組んだ女子生徒を対象とした女子学生募集枠を検討する等、女子学生の関心を高めるスキームを構築していく予定である。地域の初等中等教育段階の学校との連携については、本学が地域連携として実施している児童・生徒を対象とした運動・スポーツ指導や出張授業等を新学部のカリキュラムに取り込む等、新学部の教育に広く興味・関心を喚起し得る連携を検討していく。留学生の受け入れ強化については、オンキャンパスの国際教育寮、国際会議機能を有するグローバル館の設置や「学びたい」という希望を持つすべての人びとが差別なく楽しい、のびのびと学ぶことのできる学習環境を提供する」という目標の実現のため設置されたダイバーシティセンターの活動など、多様な文化背景を持つ学生達の多様な学びを促進する環境を整備している点を広報する。また、国際連携校及び海外指定校制度を活用していく等、留学生への訴求力を高めている。	設置構想検討にあたって、理工系分野を目指す女子学生を入学段階から卒業時までフォローアップするプログラム設置といった構想検討を進めている。女子枠の設定といった入試政策上だけでなく、教育課程での支援やキャリア教育面でのフォローアップなどの検討を進めている。初等中等教育段階の学校と連携したデータサイエンスに基づく教育研究成果をスポーツ分野への実装に結びつける力を養うものなどPBL型科目を複数検討している。本学において、包括連携協定を締結している立川市における取組みである「休日部活動の地域連携・地域移行」に向けて連携・協働を行うトライアル事業を開始しており、新学部においてもこのような取り組みを参考に検討を進めていく予定である。	多様な入学者確保とアドミッションポリシーにおける検討の具体化が課題である。設置構想をブラッシュアップする中で学部の教育理念や養成する人材像が明確化された結果、当初想定していた留学生の受入れより、むしろ社会人受け入れの取り組みの方が本学部のアドミッションポリシーに適うといった議論も進んでいる。多様な入学者確保の視点に留意しつつ、今後アドミッションポリシーに基づき、入試政策に関する検討をブラッシュアップする中で重視する事項と適切な入試選抜方法等の明確化を検討していく。また検討中の新しい2つの学部における相互連携をはじめとした学内連携の視点からの検討も進めていく予定である。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	中央大学
		学部学科名	経済学部経済学 経済学専攻経済学科、国際経済学专业、経済情報学专业

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている ☒ チェック 確認の対象に該当しない ☐ チェック	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者進捗が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	全体的な計画として、適切な管理・教育体制および教育研究環境の整備を図る検討は進んでいるが、既存施設等の調査開始が遅れている。施設想定にあたり、特に給排水、電気関連設備、想定教員の研究に関わる仕様などが関係する実験・研究施設については、学部設置構想の進捗に応じて適切な既存施設改修での対応可否または施設新設要否についての調査範囲等が変わることが原因である。施設想定の機能別での切り分けや2学部での共通利用可能な施設設備などの整理が課題である。現在関係部署にて対応し、2024(令和6)年度には整備計画策定に着手する予定である。
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った ☒ チェック	
⑨	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じ、教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第16条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機微が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した ☒ チェック	
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない ☒ チェック	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	中央大学
		学部学科名	農産情報学部 農産生産学科 生産環境工学科 農林経済学科

4.調査事項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施について、多摩キャンパスが位置する八王子市は、都内最大の農業地域であることから地域連携にも適していると考える。食料問題はグローバルな課題であるが、農業地域として担い手の育成・確保や農業技術の向上、農業の第6次産業化等の課題も有している。そこで、農場実習に際するインターンシップや農業との関連企業へのインターンシップなどに加え、企業や官公庁ともPBL型カリキュラムを実施できる教育体制を整備・実施する等、近隣自治体とのフィールドワークや企業と連携したインターンシップ型の教育を学内外で実施していくを考える。その実現に向けて、近隣自治体や企業等を対象に農業においてよりニーズの高い分野や教育手法についてニーズ調査を行い、具体的な分野の絞り込みやカリキュラム設定の検討を進めていく予定である。地域の他大学と連携した科目の整備・実施については、本学では展開していない家政学、栄養学等の分野を擁する大学との連携を視野に入れて検討する予定である。	現在構想中の農業情報学部（仮称）は本学においては新たな分野である「農学関係」の分野を基礎としており、学部設置の必要性とその社会的背景や教育理念等、学部構想の核となる部分のブラッシュアップから構想検討を進めている。近年農学部を設置した他大学（1件）を訪問させていただき、農学の状況や施設見学を実施した。また、2023年度は近隣の自治体（1件）に構想のご案内からアプローチを始めており、2024年度に入り構想検討状況の報告と意見交換を行っている。今後近隣自治体とも順次意見交換などを行う予定である。 多様な入学希望者と社会において具体的なニーズのある人材育成のため、高校生アンケートと企業アンケートの準備を進め、2024年度に実施予定である。今後は学外有識者を加え構想検討を進める予定であり、進捗に応じ適切なタイミングでアンケート結果に基づき連携科目の整備を進めていく予定である。	各々届出・認可申請による新設予定の2学部構想を求めた計画のため、各学部の検討進捗状況に差が出ている。 一方で、効率的な経費使用の観点にも鑑み、同時に行うべき取組の組みもあるため、各設置構想の進捗に応じて各構想と計画実施における調整が課題である。具体的には2学部で重複したアンケート実施とならないように今年度は対象企業の選定やアンケート設問作成などの準備を実施し、アンケート調査自体は2024年度実施とする軽微な変更を行うことで対応をした。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☐ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☒ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保については、本学が既に実施している理工系分野を目指す女子学生が自らのキャリア形成に活用できる知見を得ることを目的とした女性理工系スペシャリスト育成プラン新学部に適した形へリブランディングするとともに、農業高校を対象とした女子学生募集枠を検討する等、女子学生からの関心を高めるスキームを構築していく予定である。社会人学生の受入れ強化については、農業関係就業者を対象としたリカレント・リスキングのニーズについてフェーズ1で調査の上、ニーズに即したプログラム、学生募集方法等を検討する予定である。留学生の受け入れ強化については、オンキャンパスの国際教育寮、国際会議機能を有するグローバル館の設置や「学びたい」という希望を持つすべての人びとが差別なく集い、のびのびと学ぶことのできる学修環境を提供する」という目標の実現のため設置されたダイバーシティセンターの活動など、多様な文化背景を持つ学生達の多様な学びを促進する環境を整備している点などを点検する。また、国際連携校及び海外指定校制度の活用や従来型農業が主流な地域への学生募集方を検討する等、留学生への訴求力を高めていく。	現在構想中の農業情報学部（仮称）は本学においては新たな分野である「農学関係」の分野を基礎としており、学部設置の必要性とその社会的背景や教育理念等、学部構想の核となる部分のブラッシュアップから構想検討を進めている。2024年度より3つのポリシー等学部設置に向けた構想の具体化を図る予定である。 本学にとって新しい分野ということで申請時点において、スポーツ×デジタル系学部よりも構想検討に費やす時間を多く見積もっており、スケジュールに基づいて検討を進めている。 2023年度において構想の土台を固めてきたので、2024年度は具体的なカリキュラムなどの検討にあたり、女子学生確保の観点を中心に、アンケート結果に基づき構想検討を進める予定である。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	中央大学
		学部学科名	健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i)

学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☐ チェック

全体的な計画として、適切な管理・教育体制および教育研究環境の整備を図る検討は進んでいるが、施設計画に関する実施については、項目ごと、設置予定学部ごとの進捗に差が生じている。施設想定にあたり、特に給排水・電気関連設備、想定教員の研究に関わる仕様などが関係する実験・研究施設についての調査・仕様確定を進めている。既存施設の改修における計画見直しはある程度無闇に進んでいる一方で、既存施設で賄えない部分に関する検討が少し遅れている状況のため、教員候補者への聞き取り等を複数部署で連携し進めるとともに、設置に関するアドバイザーには設置予定分野の開設実績などがあることを重視して業者選定を行うなどの工夫をして対応したい。
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック
- ⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑪

フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第16条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック
- ⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	中央大学
		学部・学科名	健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

4. 調査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
 - チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
 - チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施については、スポーツを「する・みる・さえる・しる」に関わるフィールドワークやインターンの場を設けるにあたり、企業・自治体との連携が必要と考えている。データサイエンスの要素を活かして運営や指導に携わること、データの計測や分析をするのみではなく、どのように効果的なアウトプットやフィードバックをするかという運営視点も併せ持つことが生産的な学びとなると想定しているため、フェーズ1では、その実現に向けて、近隣自治体や企業等を対象に健康スポーツにおける連携ニーズについて調査し、具体的な分野の絞り込みやがけゅうム設定の検討を進めていく予定である。地域の他大学との連携については、本学では展開していない医療系、薬学系、家政学、栄養学等の分野を擁する大学やスポーツ活動におけるデータ収集においてともに活動が可能な近隣大学等との連携を視野に入れて検討する予定である。	2024年度はマーケットニーズ調査とともに、近隣の自治体（4件）と調査実施の協力依頼と意見交換という形で検討にご協力いただいている。またスポーツ系のデータ計測や測定機器等を取り扱う企業（2件）と測定機器の紹介、授業での使用想定、eスポーツの現状、養成する人材ニーズなどに関して意見交換を行った。構想の具体化が進んでおり、今後授業での連携なども含めた、より具体的な学部開設後の科目レベルでの連携に向けてニーズ調査の結果などを利用するとともに、地域の企業との調整などを進めていく予定である。また、本学では展開していない分野や関連分野に強みを擁する他大学との連携も随時調整を行う予定である。	各々届出・認可申請による新設予定の2学部構想を兼ねた計画のため、連携先の確保や接触回数などに差は出てきているが、各学部の構想が具体化してきており、設置予定相場の分野にまたがる事業を行っている企業には、もう片方の学部との連携についても相談することや大学全体での包括的な連携の動きとも運動させるなどの工夫をして対応したい。構想に意見をいただく段階から実際の科目での連携など、より具体的な協議の段階に進んできているため、入試・広報・教員編制など様々なカテゴリーとの運動が課題と感じている。学部の理念、3つのポリシー、具体的な科目概要などに賛同いただける企業・大学・自治体などと協議を進めることで計画通り進めていく予定である。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
 - チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
 - チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
 - チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
 - チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保については、本学が既に実施している理工系分野を目指す女子学生が自らのキャリア形成に活用できる知見を得ることを目的とした女性理工系入ベシャリスト育成プランを新学部に適した形へリブランディングするとともに、高校時代にアスリートやマネージャーとしてスポーツに取組んだ女子生徒を対象とした女子学生募集枠を検討する等、女子学生の関心を高めるスキームを構築していく予定である。地域の初等中等教育段階の学校との連携については、本学が地域連携として実施している児童・生徒を対象とした運動・スポーツ指導や出張授業等を新学部のがけゅうムに取り込み等、新学部の教育に広く興味・関心を喚起し得る連携を検討していく。留学生の受け入れ強化については、オウキャンパスの国際教育寮、国際会議機能を有するグローバル館の設置や「学びたい」という希望を持つすべての人びとが差別なく集いのびのびと学ぶことのできる学修環境を提供する」という目標の実現のため設置されたダイバーシティセンターの活動など、多様な文化背景を持つ学生達の多様な学びを促進する環境を整備している点を広報する。また、国際連携校及び海外指定校制度を活用していく等、留学生への新求力を高めていく。	設置構想検討にあたって、理工系分野を目指す女子学生を入学段階から卒業時までフォローアップするプログラム設置といった構想検討を進めている。女子枠の設定といった入試政策上だけでなく、教育課程での支援やキャリア教育面でのフォローアップなどの検討を他大学事例も参考に進めている。学びの意義や気付きなどを得ることを目的とし、データサイエンスに基づく教育研究を経験学習を通じて最大化できるように、スポーツビジネス分野や実際のスポーツ現場にデータサイエンスを応用している企業と連携したPBL並科目を複数設置予定であり、現在連携に向けて協力依頼などを進めている。本学において、包括連携協定を締結している立川市における取組みである「休日部活動の地域連携・地域移行」に向けて連携・協働を行ったりアル事業を開始しており、新学部においてもこのような取り組みを参考にさらなる検討・具体化を進めていく予定である。	多様な入学者確保とアドミッションポリシーにおける検討の具体化が課題である。設置構想をブラッシュアップする中で学部の教育理念や養成する人材像が明確化された結果、当初想定していた留学生の受入れより、むしろ社会人受け入れの取り組みの方が本学部のアドミッションポリシーに合うといった議論も進んでいる。多様な入学者確保の視点に留意しつつ、今後アドミッションポリシーに基づき、入試政策に関する検討をブラッシュアップする中で重視する事項や適切な入試選抜方法等の明確化を検討していく。また検討中の新しい2つの学部における相互連携をはじめた学内連携の視点からの検討も進めていく予定である。

フオーアップ対象年度	令和6年度	大学名	中央大学
		学部学科名	農学振興学部 農産加工食品学科、食品環境工学科、食料ロジスティクス科

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	全体的な計画として、適切な管理・教育体制および教育研究環境の整備を図る検討は進んでいるが、施設計画に関する実施については、項目ごと、設置予定学部ごとの進捗に差が生じている。施設想定にあたり、特に給排水、電気関連設備、想定教員の研究に関わる仕様などが関係する実験・研究施設についての調査・仕様確定を進めている。既存施設の改修における計画見直しはある程度順調に進んでいる一方で、既存施設で備えない部分に関する検討が少し遅れている状況のため、教員候補者への聞き取り等を複数部署で連携し進めるとともに、設置に関するアドバイザリーには設置予定分野の開発実績などがあることを重視して業者選定を行うなどの工夫をして対応したい。				
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組み計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じ教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第16条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機微が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	中央大学
		学部学科名	農産物生産学部 農産加工食品学科、食品環境工学科、食品応用化学学科

4.調査事項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
 - チェック b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
 - チェック c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施について、多摩キャンパスが位置する八王子市は、都内最大の農業地域であることから地域連携にも適していると考える。食料問題はグローバルな課題であるが、農業地域として担い手の育成・確保や農業技術の向上、農業の第6次産業化等の課題も有している。そこで、農場実習に際するインターンシップや農業DX関連企業へのベンチャーシップなどに加入、企業や官公庁ともPBL型カリキュラムを実施できる教育体制を整備・実施する等、近隣自治体とのフィールドワークや企業と連携したインターンシップ型の教育を学内外で実施していくを考える。その実現に向けて、近隣自治体や企業等を対象に農業においてよりニーズの高い分野や教育手法についてニーズ調査を行い、具体的な分野の絞り込みやカリキュラム設定の検討を進めていく予定である。地域の他大学と連携した科目の整備・実施については、本学では展開していない家政学、栄養学等の分野を擁する大学との連携を視野に入れて検討する予定である。	現在構想中の農業情報学部（仮称）は本学においては新たな分野である「農学関係」の分野を基礎としていることから、学部設置の必要性とその社会的背景や教育理念等、学部構想の核となる部分のブラッシュアップから構想検討始め、明確化したコンセプト等から教育課程編制・教員課程編制等を進めている。検討を順調に進め、企業や農業の現場と連携した早期体験学習科目を行う計画しており、近隣地域の自治体（4件）、遠方地域の自治体（2件）、また農業関連や金融機関（3件）と科目の説明や条件など連携に関する協議を始めている。また国内外の大学とも随時なものも含めて意見交換を数件進めており、今後開設に向けてより具体的な協議を進めるべく説明資料の作成や運営後に想定されるレギュラー対応なども含めて詳細検討を行っている。	各々届出・認可申請による新設予定の2学部構想を兼ねた計画のため、各学部の構想が具体化してきており、連携先の確保や接点回数などに差は出てきているが、設置予定組織の分野にまたがる事業を行っている企業には、もう片方の学部との連携についても相談することや大学全体での包括的な連携の動きとも運動させるなどの工夫をして対応したい。構想に意見をいただく段階から実際の科目での連携など、より具体的な協議の段階に進んできているため、入試・広報・教員編制など様々なカテゴリーとの運動が課題と感じている。学部の理念、3つのポリシー、具体的な科目概要などに賛同いただける企業・大学・自治体などと協議を進めることで計画通り進めていく予定である。特に農学分野は自治体などが課題を抱えている分野であり、学生の早期体験学習との連携に期待をいただく回答が来ているため、制度設計の詳細を詰めることで具体的な連携網絡へ進めていきたい。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック a.入学者選抜における科目の見直し
 - チェック b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
 - チェック c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
 - チェック d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
 - チェック e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保については、本学が既に実施している理工系分野を目指す女子学生が自らのキャリア形成に活用できる知見を得ることを目的とした女性理工系スペシャリスト育成プランを新学部に適した形へリブランディングするとともに、農業高校を対象とした女子学生募集枠を検討する等、女子学生からの関心を高めるスキームを構築していく予定である。社会人学生の受入れ強化については、農業関係就業者を対象としたリカレント・リスキングのコースについてフェーズ1で調査の上、コースに即したプログラム、学生募集方法等を検討する予定である。留学生の受け入れ強化については、オンキャンパスの国際教育寮、国際会議機能を有するグローバル超の設置や「学びたい」という希望を持つすべての人びとが差別なく集い、のびのびと学ぶことのできる学修環境を提供する」という目標の実現のため設置されたダイバーシティセンターの活動など、多様な文化背景を持つ学生達の多様な学びを促進する環境を整備している点を広く広報する。また、国際連携校及び海外指定校制度の活用や従来型農業が主流な地域への学生募集方針を検討する等、留学生への訴求力を高めていく。	設置構想検討にあたって、早期のキャリア教育を重視しており、理工系分野を目指す女子学生のキャリアなどについてもフォローアップ体制を構築するよう検討している。入学段階から卒業時までのフォローアップといった入試政策（女子枠の設定など）に留まらない取り組みを検討している。また、オンデマンドを活用した授業科目を設定する予定であり、これらの科目などをパッケージ化するなど社会人のリスキングなどに向けた募集策などを検討している。	多様な入学者確保とアドミッションポリシーにおける検討の具体化が課題である。設置構想をブラッシュアップする中で学部の教育理念や養成する人材像が明確化され、アドミッションポリシーも明確化した結果、当初想定していた留学生の受入れに関しては受け入れ強化という視点が後退し、日本人学生の国際経験などを重視する部分も出てきている。一方でDX/バースクール・農業高校などとの連携といった地域の初等中等教育段階の学校との連携も検討しており、計画変更も含めて対応予定である。

大学名	中央大学
-----	------

1. 本事業対象となる学部等の状況

[illegible]

大学名	中央大学
-----	------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	中央大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	6,251	6,246	6,246																
		入学者数	人	6,362	6,462	5,876																
	その他の学期	入学定員	人	30	35	35																
		入学者数	人	11	17																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	6,281	6,281	6,281																
		入学者数(B)	人	6,373	6,479	5,876																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.01	1.03	0.94																
	収容定員等	収容定員(C)	人	25,124	25,124	25,124																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	26,113	26,669	26,381																
		編入学者数	人	27	21	13																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.04	1.06	1.05																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目			単位																		
外部資金獲得額			千円	1,523,639	1,927,380	1,958,069	2,315,964	2,274,365	2,066,683	3,077,189											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	2,053,271
本事業による助成金の額(F)	千円	2,569,999
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	2,117,521

特記事項

「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」および「3.大学（学士課程）の状況」におけるR5年度～R7年度の編入学定員0人とは、若干名を意味している。